足立区立島根小学校

学校だより

養根開花

校長　世取山　哲哉

https://www.adachi.ed.jp/adsima/　10月号　令和5年9月29日

つながる教育

教務主任　満永　健一

足立区では、幼保小連携の取り組みを行っており、保育園と小学校の交流を行っています。これまでに保育園の子供たちが島根小の１年生の教室や図書室を参観したり、翌年度にお世話をすることを見据えて５年生が保育園の子供たちと交流をしたりしています。また、保育園の先生が小学校を参観したり、小学校の教員が保育園を参観したりして保育や教育活動について学ぶ機会を設けています。

私は、今年の夏休みに栗原つくし保育園で保育参観をすることができました。朝の会や自由遊び、ソーラン節や合奏の練習の様子を見させていただきましたが、年長の子供たちの立派な姿に感動しました。朝の会の出席確認では、みんな大きな声で返事ができ、先生のお話をしっかりと聞いていました。合奏の練習では、個人練習からみんなで合わせる練習への切り替えが早く、一つ一つの活動に集中して取り組んでいました。小学校に入学して環境が変わっても、集団生活に順応していけるのは、保育園や幼稚園の先生方のきめ細やかなご指導のお陰であることを改めて感じました。

一方、６年生はあと半年で中学校に進学します。「中１ギャップ」という言葉がある通り、小学校と中学校の環境の変化もとても大きいものです。部活動が始まったり、授業が教科ごとの先生になったりします。先輩や後輩との関係も小学校とはずいぶん雰囲気が異なります。そうした変化に早く慣れ、小中学校の円滑な接続ができるようにするのも、我々小学校の教員の大切な使命です。足立区では、幼保小連携だけでなく、小中連携の取り組みも行っています。小中学校の教員が合同で授業研究を行ったり、６年生が中学校を訪問したりしています。こうした取り組みをこれからも大切にしたいと思います。

島根小では、今年度の後期から６年生で教科担任制を始めることになりました。すでに、音楽、図工、家庭、外国語は専科教員が授業を行っていますが、それに加えて社会・理科・体育を３人の担任が教科担当として３クラスでそれぞれ授業を行います。中学校の教科担任制に向けて、小学校高学年でも導入していくことを文科省が提言していますが、様々なメリットがあります。①小中学校の円滑な接続、②担任の担当教科数の減少や同じ授業の複数回実施による授業の質の向上と負担軽減、③複数の教員による多面的な児童理解と支援がメリットとして挙げられます。しかし、学級担任制による利点を損なわないようにすることや、教科担任制の導入による児童の不安を払拭することなど配慮も必要です。子供たちにとってよりよいものになるよう教職員で力を合わせて取り組んでまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。